



身近な町の話や出来事をご紹介します

だん とぴっく



▲認定書を手を持つ井塚氏

宇賀荘のツバキが新種認定

清井町在住のツバキ愛好家、井塚万三郎さんが一般社団法人日本ツバキ協会に申請したツバキ「三乗山」が新種として認定されました。

新種として登録された「三乗山」は、平成17年に井塚さんが自宅近くの三上山の山中で偶然発見。葉が小判型で花が小さく12月頃に咲く早咲きであったことから珍しいと思い、発見した山の名から一字を変えて、三乗山と名付け、自宅で挿し木などをして増やしました。

昨年2月に日本ツバキ協会に新種登録を申請し、4月9日に京都府与謝野町で行われた椿サミットで認定を受けました。今後は日本ツバキ協会を通じて、国際ツバキ協会（ロンドン）へ新種として申請されます。

認定を受けた井塚さんは「宇賀荘が椿の里として一生懸命取り組んできたご褒美のようです。新種登録が刺激となって地域がさらに盛り上がりしてほしい」と喜びを語りました。

▼新種に認定されたツバキ「三乗山」

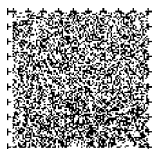


はなやか! 東比田のシバザクラ

東比田の永田集落のあぜに植えられたシバザクラが見頃を迎えた4月30日、シバザクラ祭りが開催されました。

永田集落では、平成26年から集落の環境美化と雑草抑制のため、防草シートにシバザクラの植え付けを始め、今年は集落内の3箇所約2,500㎡に見事な花が咲きました。

祭りは、湯田山荘から500mほど東側へ進んだシバザクラ前をメイン会場として開催。ステージや飲食物を販売するテントが並び、地区内外からの多くの人でにぎわいました。





たたら文化が息づく「刃物まつり」

全国の刃物産地が一堂に集まる「やすぎ刃物まつり」が、5月4・5日に中心市街地で開催されました。各産地で素材として使われているのは、市内で生産されるハガネで、このハガネはたたら製鉄に深い関わりがあります。開会式では、たたら製鉄の文化が日本遺産に決定したことが報告されました。

会場では、全国9府県から40店舗が展示即売。新潟県三条市から出店した平出大礼さんは、「建具屋さんなどが使う専門道具を揃えて、毎年この祭りに来ています。全国からいい道具が集まるので、専門職の方がたくさん来られます。なじみのお客さんができたので参加を楽しみにしています」と話していました。



▶和鋼博物館では五寸釘を使用したペーパーナイフ作りが行われ、多くの方が刀匠の指導を受け体験していました。



学生寮完備で、 高校生の安来留学

市内の二つの高校の学生向けに学生寮が整備され、3人の高校生が新たな生活をスタートさせました。寮となっているのは、市が所有する島根総合福祉専門学校の学生寮（広瀬町）。ワンルームタイプで、主な家具やWi-Fi環境付きで、防犯設備も整っています。

県立安来高校・情報科学高校では、今年度から「しまね留学」の対象校となっています。この制度は、主に県外からの高校生を積極的に受け入れるもので、これに併せて学生寮を市が両校に無償で提供することになりました。

現在、入寮しているのは安来高校の山本晃生さん（吉賀町出身）、石橋幸大さん（松江市出身）と、情報科学高校の荻野司さん（兵庫県出身）です。3人とも朝食は自炊、夕食は宅配弁当での生活です。

荻野さんは志望動機を「インターネットで高校のカリキュラムを見て島根に来ることに決めました」といい、「方言に少し戸惑っています」と話してくれました。

また、高校までバス通学をしている山本さんと石橋さんは、これまでの感想をそれぞれ「本数が少ないので遅れると困ります。そのため時間を意識して行動するようになりました」「個室なので勉強も集中できますよ」と話してくれました。

▶学生寮には談話室があり、夕食は同室で食べます。

